

専門研修プログラム名	大分大学医学部附属病院連携施設群	専門研修プログラム
基幹施設名	大分大学医学部附属病院	
プログラム統括責任者	寺尾 岳	

専門研修プログラムの概要	基幹病院の大分大学精神科は、閉鎖病棟15床、開放病棟15床の合計30床で、大学病院の特性から難治例、身体合併症例などにも対応している。高度救命救急センターもあるため、自殺企図などにより重篤な身体損傷の生じた患者は、このセンターで蘇生および身体管理後に、精神科病棟で適切な精神科治療を受ける。精神科病棟に空床がない場合には、連携病院に入院加療をお願いしている。研修プログラムの連携病院としては、大分県立病院精神医療センターや別府医療センター精神科、産業医科大学精神科、福岡大学病院精神神経科などの公的医療機関や、大分市の衛藤病院、大分丘の上病院、佐藤病院、帆秋病院、別府市の鶴見台病院、向井病院、山本病院、宇佐市の宇佐病院、中津市の大貞病院があり、大分県内に広くネットワークがある。また、大分県こころとからだの相談支援センターとも連携し、精神科治療にとどまらず、相談支援業務や一般の方への啓発活動、一次予防から三次予防までの活動に従事することで精神科の社会的な側面からの研鑽を積む。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	大分大学精神科では、専攻医は主治医として治療を行う。上級医や指導医が専攻医の指導を密に行い、薬物療法、精神療法、家族とのかかわり、地域とのかかわりなど直接指導を受けながら学ぶ。また、看護師、心理士、精神保健福祉士、作業療法士等、全スタッフを交えたカンファレンスを設けて、それぞれの症例について時々刻々と変わる精神状態を検討し、適切な治療・対応を工夫している。専攻医が孤立して治療にあたることがないよう、十分にサポートしながらチーム医療を実践している。専攻医はさまざまな入院患者を受け持つため、幅広い精神疾患を経験し、さらには難治例に関しての緻密な薬物療法、修正型無けいれん性電気療法、クロザピン治療などを修練することができる。また、児童・思春期精神障害や認知症も経験することが出来る。外来患者を対象としたリワークにも参加する。連携病院においても、それぞれの指導医・上級医の指導のもと治療などに参加することが出来る。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	3年間の研修を経て、最終的には主要な精神疾患を単独で診断、治療（入院・外来）が出来る知識を修得する。精神療法や修正型無けいれん性電気療法の施行、脳波判読などの技能も修得する。また、患者や患者家族へと敬意をもった態度での診療が出来るようにする。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	回診カンファレンスで自分の担当患者のみならず、病棟全体の患者の治療に関して知識を深く学んでいく。リエゾン・コンサルテーションや多職種とチームカンファレンスを行う事や、職場や学校など患者の生活する場の関係者と連携を取ることでチーム医療や社会的医療を活用する技能を習得していく。
	学問的姿勢	研修期間を通して、症例について最新の文献を精読し、それを実際の治療に役立てられるようにする。また、その結果得られた知見に関しては、学会発表や学術雑誌への投稿を行う。基幹施設では文献の抄読会も行い、それに参加する。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	患者関係の構築、チーム医療、安全管理、倫理観の構築を到達目標として、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。基幹施設で行われる医療倫理、医療安全、感染制御のセミナーへと参加する。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといったコンピテンシーは基幹施設で習得し、連携施設にてその習熟度を上げる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目：入院患者を受け持ち、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。また、精神保健福祉法に関わる諸手続き、書類の作成方法を学ぶ。2年目：指導医の指導を受けつつ、薬物療法や心理教育、家族教育なども自らが主になって行い、その技法を向上させていく。3年目：指導医から自立して診療できるようにする。外来症例や入院症例も単独で担当し、主となって治療を行っていく。
	研修施設群と研修プログラム	典型的には1～2年目に基幹病院である大分大学医学部附属病院精神科で研修し、精神科医としての基礎を固める。大分県立病院や別府医療センター、産業医科大学精神科、福岡大学病院精神神経科といった公的医療機関や、地域の精神科単科病院にてさらに精神科医としての経験を積んでいく。
	地域医療について	連携病院は14施設あり、各病院ごとに様々な特徴を持っている。ローテーションの中で地域における精神科医療も学んでいく。
専門研修の評価	専門研修の評価は各年度毎に研修病院の指導医によってなされる。指導医から適宜専攻医へと研修の指導・評価がなされる。さらに、定期的開催される連携施設群の会議において、専攻医の症例経験の進捗状況や他職種による評価も行われる。1年間に3回のプログラム会議が開催され、進行状況並びに研修目標の達成度を各施設の指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。	
修了判定	修了判定は研修3年目の終了前に、専門研修プログラム管理委員会で協議された上で、最終的に統括責任者が行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医および研修プログラム全般の管理と研修プログラムの継続的利用を行う。
	専攻医の就業環境	専攻医の労働安全管理は国立大学法人大分大学職員労働安全衛生管理規定（平成26年4月1日制定）に則って行われる。専攻医（職員）は、労働災害を防止するため必要な事項を遵守するほか、学長その他の関係者が実施する労働災害の防止に関する措置に従わなければならない。また、医師の働き方改革の流れに沿って、勤怠管理をきちんと行い、過重労働を防ぐように努める。
	専門研修プログラムの改善	年3回行われる専攻医からの研修プログラム評価を受け、専門研修管理委員会はさらなるプログラムの改善を行っていく。
	専攻医の採用と修了	専攻医の採用はプログラム希望者の内より統括責任者が面接の上、選定する。修了に関しては、専門研修プログラム管理委員会で協議された上で、最終的に統括責任者が行う。

	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専攻医から統括責任者へと研修の休止・中断、プログラム異動、プログラム外研修の希望があった際は、面接の上、両者が協議して方針を決定する。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	研修に対するサイトビジットの希望があった際は、統括責任者に連絡した上で、日程調整など検討する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	寺尾 岳（大分大学医学部附属病院 精神科 教授）、河野 健太郎（大分大学医学部附属病院 精神科 講師）、平川 博文（大分大学医学部附属病院 精神科 講師）、泉 寿彦（大分大学医学部附属病院 精神科 助教）	
Subspecialty領域との連続性	主要な精神疾患の診断・治療が行うことが出来るようになった上で、さらなる専門性を高めるために、専攻医の興味のある疾患に関しては専門性の高い指導医から臨床や研究の指導が行われる。	